

山紫水明

- 未来へつなぐ日本の原風景 -

デザインコンセプト

循感

めぐりかんじる めぐってかんじる

生命誕生の起源である「水」の循環、食物連鎖や輪廻転生などの「いのち」の循環、資源のリサイクルや「エネルギー」の自給自足による循環型社会の形成など、さまざまな「循環」と「日本らしさ・大阪らしさ」を、会場内を「めぐる」ことで「感じ」られる会場デザインを提案します。

Point1 水、いのち、エネルギーの循環

わたしたちいきものの「いのちの起源」は「水」です。水によっていのちが誕生し、わたしたちは生きています。しかし、水によってもたらされる災害が死を呼びよせることもあります。生から死までをつかさどり、「いのちの循環」を生む水はいのちの象徴であると考え、今回の提案募集のテーマである「いのち輝く」デザインを水の循環と光によって表現することとしました。

また、水の循環を表現するにあたって必要な動力は、会場内で創出することとし、エネルギーを循環させることで自給自足する「持続可能な会場」をめざします。

水の流れ・循環

いのちきらめき

再生可能エネルギー

Point2 日本らしい・大阪らしい風景をめぐる

田畑や河川
自然的景観

万博を日本で開催するからには、「日本らしさ」、「大阪らしさ」を取り入れることは必須であると考えます。

稲作や畑作などの農地が広がる風景や小さな島々が連なる風景は、古くから日本にある風景のひとつです。近年のツーリズムでは人気の観光施設だけでなく、こういったのどかな景観なども好まれる風潮にあります。

このことから、日本らしい景観の要素として「農村風景」と「島々の連なる風景」を採用することとしました。

次に、「水都大阪」の要素に着目しました。

かつて、大阪は「水の都」と呼ばれ、多数の堀・川が張り巡らされた水上交通の盛んな都市構造をしていました。

今回の会場においても水の循環をキーワードとすることから、水路を活用し、各ゾーンをつなぐ渡し舟を運行することとします。

また、来場者を楽しませる演出として昔からつく「郷土のおまつり」や親から子へと繰り返し語り継がれる「日本昔ばなし」といった「日本」や「循環」にちなんだ要素を会場内にちりばめます。

水都大阪
張り巡らせた
水路

昔からつく
伝統的な
おまつり

語り継がれる
日本
昔ばなし

島のパビリオンゾーン

夢島



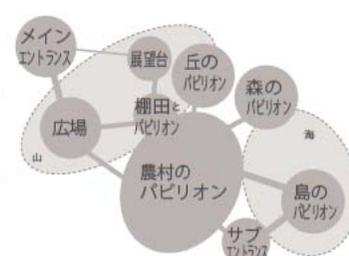
展望台から臨む会場の風景（夕景）

Point3 自然と人工の融合

今回の会場となる「夢洲」は人工島です。そこにあえて「自然らしい風景」を創出することで、「自然と人工の融合」を図ることをめざします。自然らしい風景の創出方法として、
・自然素材（樹木や土など）を用いて自然を複製する
・人工素材（鋼材やガラスなど）を用いて自然をモチーフとした空間を創造する
の2つの方法を試み、これらのもたらす心象を比較し、これからの都市の形成について考える一助とします。

会場構成

会場は、2つのエントランスと5つのパビリオンゾーン、広場で構成します。これらをつなぐように水路や園路をはりめぐらします。



農村のパビリオンゾーン

田園

SDGs との関わり

SDGs に示された 17 の目標のうち、本提案では⑥水・衛生、⑦エネルギー、⑩都市、⑬気候変動、⑮陸上資源に貢献できると考えます。





※上段の3つのブースの中にはさまざまなものがたりの登場人物が隠れています

夢堀通りの風景



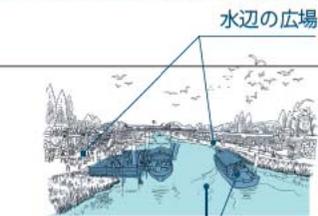
光風のひろばの風景



生命のもりの風景

メインアクセス 夢堀通り

水都大阪にちなみ、メインアクセスを水上交通とします。夢堀通りはその中心で、多くの渡し船が行き交い、様々ないきものが集まります。
また、河畔は企業によるブース出展や神輿などの催しを行う広場とし、賑わい創出に寄与します。
運がよければ、昔ばなしの登場人物に出会えるかもしれません。



運河（夢堀通り）と渡し船

会場の要所をつなぐ、渡し舟が往来する運河。渡し舟は本会場の主要交通手段。

農村のパビリオンゾーン

田園



農村をイメージしたこのゾーンのパビリオンは、大半を地下に埋めるしつらえとし、地上部に出た屋根には水を張ることで、水田が広がる風景を創出します。



島のパビリオンゾーン

夢島

瀬戸内海の島々を想起させるパビリオン群には、海上の架け橋もしくは船によってアクセスできます。建築物は島の起伏部や地中に埋め込む構造とすることで、一見自然らしい景観を装います。



島のパビリオンゾーン
生命のもり

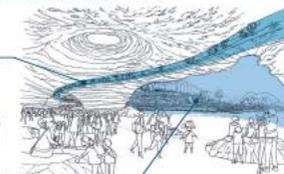
水辺の広場

はじまりのひろば 光風のひろば

エントランスの先にある薄暗いトンネル抜けると、陽の光と水に満たされ、爽やかな風の吹き抜ける瑞々しい空間が広がります。光と影の対比により、いのちの誕生（期待感・高揚感）を創出します。
洞窟の上部には水の循環起点であるため池があり、そこから零れる水滴や光、ひろばを通り抜ける「光と風の小径」が洞窟の内と外をつないでいます。
また、幅70mを超える「表裏の滝」が訪れる人々を圧倒させます。
なお、洞窟内では、洞穴に住んでいる鬼との遭遇に注意が必要です。

光と風の小径

光と風の流れをイメージした空中回廊。広場から会場内を張り巡り、森のパビリオンまで続く。



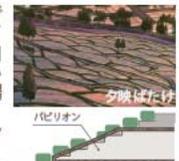
表裏の滝

幅70mの圧巻の滝。滝の裏が見える。滝をスクリーンとした映像展示も可能。

棚田とパビリオン

夕映ばたけ

日本の農村風景の1つである棚田やだんだん畑をイメージしたゾーンです。田畑は山頂の展望台まで続いており、美しい風景で来場者を楽しませます。また、棚田の一部にはパビリオンが埋め込まれています。



丘のパビリオンゾーン 風のおか

光と風の小径が吹き抜ける丘。建築物（人工）と丘（自然）が一体となる景観は、小径を通る人の目を惹きつけます。

丘のパビリオンゾーン
夕映ばたけ

森のパビリオンゾーン

生命のもり

大樹が連なり、こもれびの射す神秘的な空間をイメージしたゾーンです。「大樹」は鋼材などの人工物を用いてつくられており、木の葉が太陽光や風を受けて会場内のエネルギーを創り出しています。
自然らしい景観を、人工物を織り交ぜて演出し、未来社会における自然と人工の調和を模索します。

木のパビリオン

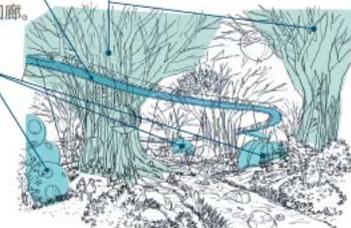
大樹のイメージ。動線部である幹に登り、樹冠内のパビリオンにアクセスする。木の葉はソーラーパネルとガラスを組み合わせており、会場内にエネルギーを供給するほか、パネルやガラスの反射で森の中に「こもれび」を演出する。

光と風の小径

光風のひろばから続く空中回廊。

実のパビリオン・出店ブース

果実や木の実をモチーフとしたもので、森を彩るオブジェと小規模なパビリオンや出店ブースを兼ねる。特にパビリオンは「知恵の実」をイメージ。見学・体験することで、知識を吸収（食すこと）ができる。



会場内の水の循環イメージ



会場内の水は、まず「ため池」に貯水され、「滝」を降下したあと「棚田・農地」を介し、「運河・水路」を流れて「海」へたどり着き、また「ため池」にもどる循環を繰り返します。

万博終了後の会場

夢洲では、万博会場とは別に、IRの誘致が検討されています。万博終了後の会場は「観光・産業ゾーン」として、山や丘、水路などの地形そのまま活用することを想定します。
近未来的なIRの空間と対照的な日本の原風景を提供するほか、諸外国からの来訪者に日本の農・食文化などを伝える場として活用することを提案します。



→原風景・癒し
・アグリツーリズム
・ファームツーリズムなどに活用

